

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：14501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25883006

研究課題名(和文) アフリカ産油国の経済構造に関する2つのパラドックスの検証

研究課題名(英文) Analysis on two paradoxes on the economic structure of African oil exporting countries

研究代表者

中瀬 一恵(出町一恵)(Demachi (Nakase), Kazue)

神戸大学・国際協力研究科・助教

研究者番号：20709753

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では天然資源開発に依存して成長するサハラ以南アフリカ諸国では、資源収入の増大が見られる一方で資本を国外へ押し出す圧力も非常に強く、資本が逃避・流出している可能性を示した。またナイジェリアについての分析より、産油国では不安定な資源収入に支えられた輸入依存が構造的となり定着し、政府にとって輸入依存によって国内への生活必需品を安価で供給し、国内市場と社会の安定化を図ることが政策上有効なツールとして定着しつつあることが示された。

研究成果の概要(英文)：In resource-dependent economies in Sub-Saharan Africa, natural resource revenue increases as resource export increases. However the analysis revealed the possibility of increasing capital flight or capital outflow from those countries when resource price and capital inflow increases. Moreover, analyses on oil-rich Nigeria suggested that oil exporter countries become even more import-dependent. Supplying imported low-price basic goods and foods to stabilize domestic economy seems to be regarded as an effective political tool by the government, which further consolidates import dependence despite the instability and uncertainty of natural resource revenue.

研究分野：アフリカ経済 マクロ経済

キーワード：アフリカ 経済発展 資源国経済

1. 研究開始当初の背景

アフリカを含む多くの発展途上国が世界的な天然資源への需要の高まりと国際資源価格の高騰によって資源輸出国と転じた。1970年代以降長期にわたり経済が停滞し、以来長きにわたり貧困地域とみなされてきたアフリカ諸国も、2000年代に入り経済は急成長を始めたと言われるようになった。しかし、「資源の呪い」という言葉で論じられてきたように、天然資源に恵まれた国は莫大な資源収入にも拘らず経済停滞や紛争、暴力といった社会の不安定化に見舞われることが多い。このような背景を受け、アフリカの資源産出国の経済構造について分析を行うことが重要と考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的はアフリカの産油国の経済構造における二つの逆説的な点(パラドックス)について問題を検証することにある。それらは産油国における資源採取型産業への直接投資の流入が増大している反面、資本の逃避・流出が非常に多く見られるという点、産油国は原油を産出するものの、国内の精製能力の不足から石油製品を輸入する必要があるため、多額の資源収入にも拘らず外貨の流出が起きると言う点である。これらの2点の考察を通じ、現在のアフリカ産油国への直接投資が現地の経済活動や雇用の拡大、あるいは生産性の向上といった意味での経済成長に寄与していないのではないか、という疑問点について分析するとともに、石油資源に富むという事実のために見落とされがちなアフリカ産油国のマクロ経済の構造的な問題を明らかにし、経済発展に向かおうとするアフリカ諸国が依然直面する障害を改めて指摘することを目指した。

3. 研究の方法

本研究では経済計量分析を主な手法として用いた。特に平成23年度より蒐集・蓄積してきたマクロ経済データや原油および石油製品の貿易データなどの統計を整理・拡充して利用した。これらを国際通貨基金や世界銀行、あるいは各国政府が独自に発表する統計データを用いて補完、あるいは推計を行った。ただし、以下の項で述べるように石油製品の輸出入データをアフリカの産油国について得ることは難しく、代替的にアジア経済研究所においてアクセスできるデータベースを用いて、アフリカ産油国(特にナイジェリア)の穀物や食料の輸入情報を用いた分析を行った。

4. 研究成果

パラドックスに関し、アフリカ産油国では外国直接投資の増加が経済成長を牽引し

ているが、他方で資本の逃避や流出も多いという点について、資本逃避額の推計とその規定要因の分析を進めた。天然資源に依存する発展途上国のデータを用いた分析より、資源国からの資本逃避は1980年代のように慢性的ではなく、むしろ突発的であることが示された。また、国際資源価格の上昇などによって資源収入が増加すると資本逃避も増加することが示され、資源収入の一部が国外へ流出していることを示唆する結果となった。ただし、外国からの借入が資本逃避と最も強い相関を持つという構図は1980年代から不変であることも示され、当時国際的に注目を集めた発展途上国から先進国へ向けた資本逃避という構造に今日も変化がないことが示唆された。

加えて、アフリカの資源国からの資本逃避は他地域の資源国に比べると少ない、という結果も得られた。この分析に関連し、アフリカ産油国を含む天然資源依存の途上国経済の貯蓄率と国内投資の関連性についても別個の分析も行った。計量分析の結果からは、天然資源に依存する途上国では、貯蓄が国内投資に振り向けられず国外へ流出していること、その一方で国内投資を国外からの直接投資に非常に強く依存していることが示唆された。

以上一連の分析より、天然資源(原油)に依存する発展途上国の経済では資源収入の増大が見られる一方で、資本を国外へ押し出す圧力も非常に強い状況にある可能性が示された。特にアフリカの産油国では、資源開発産業以外への投資は未だ少なく、貧困や経済インフラの未整備などの問題が多く残るにも拘らず資源収入が国内へ投資されていないという問題点が明らかになった。さらに、資源開発向け直接投資は国際資源価格に大きく影響されることから、現在のアフリカ産油国の経済成長は国際資源価格の変動に依存しているというリスクも明らかになった。

パラドックスに関しては、特にサハラ以南アフリカで最大の産油国であるナイジェリアを取り上げて分析を行った。ナイジェリアでは原油を産出するにも拘らずガソリンなどの石油製品を輸入に依存せざるを得ず、多額の外貨が流出している点を低所得産油国のパラドックスと捉えて分析対象とした。

しかし石油製品輸入に関しては当初想定していた以上にデータ上の制約があり、計量分析に必要なだけのサンプルサイズを確保することができず、分析は計画通りに進まなかった。そのため、石油製品やエネルギー関連支出についての分析と並行して、ナイジェリアの食糧輸入について分析を行った。資源輸出への依存に伴う農業生産の停滞、衰退により、ナイジェリアでは食糧の輸入が増大しているが、この輸入量は原油輸出の増大と比例しており、外貨流出要因として問題となっている。資源輸出の増大に伴って産業が衰退

したという点で、ナイジェリアにおける石油精製を含む製造業と食糧生産を含む農業の問題は共通しており、深刻である。またその結果、本来は国内生産で需要を満たせるはずの財を輸入に依存するようになったという点でも共通している。分析の結果、ナイジェリアでは石油輸出の増大とともに、伝統的には食われておらず、生産もされていなかった種類の食糧、特に小麦やパン・パスタといった小麦製品が主にアメリカから大量に輸入されるようになってきていることが見えてきた。またこのような新しい食文化は 1970 年代の石油ブームをきっかけに導入され、徐々に定着したが、2000 年代以降の資源価格高騰に伴う資源収入の増加によって、小麦の輸入量が急激に増加していることが明らかとなった。また小麦のみならず、砂糖や米といった食料も輸入依存度が高く、輸入量も増加傾向にあることがわかった。これは産油国において、不安定な資源収入に支えられた輸入依存が構造的となり定着していることを示しているが、中間財や資本財の輸入のみならず、食糧といった生活必需品までもが資源収入に依存していると言う事実は、今後の食料供給や社会の安定化を考える上でも重大である。また産油国政府にとっては、輸入依存によって国内への生活必需品を安価で供給し、国内市場と社会の安定化を図ることが政策上有効なツールとして定着しつつあると見ることもでき、政府支出が国際資源価格の変動や原油産出などの変動に対して従循環的 (pro-cyclical) となる構造を持つという問題点が一層明らかになった。

これらの研究より、アフリカ資源国では天然資源の輸出から得られた資金が国内経済に投資されず海外へ流出しているという点に加え、および資源輸出が増加するに伴い輸入依存が進むという、資源輸出国が抱える問題が具体的に明らかになった。特に後者の点は、コモディティ輸出に依存する発展途上国の特徴とも解釈することができ、アフリカ諸国が 2000 年代以降の成長の中でも、経済の構造的には大きく変化しておらず、むしろ世界経済への依存を深めており、国際的な価格や食料供給の変動から影響を受けやすくなっていることを示唆している。

以上の分析結果は、当初の研究動機でもあった、資源採取産業向けの直接投資はアフリカ諸国の経済成長に寄与しないのではないか、という疑問点を明らかにするための基礎となるが、未だ分析が不十分な点も多い。今回の研究を進める過程で生じた新たな疑問点や今回の研究で明らかにしきれなかった点は、今後の研究 (H27~29 年度 若手研究 B 『アフリカ資源国における採取産業依存型成長の再検討』研究代表者 中瀬 一恵) においてさらに発展させていく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

出町 一恵 (2015) 「アフリカ資源国の食糧輸入とオランダ病再考」『国民経済雑誌』第 211 巻第 1 号, 神戸大学経済経営学会, 59-71 頁。(査読なし)

出町 一恵, 金京 拓司 (2014) 「低開発資源国のマクロ経済運営の課題」, 『国民経済雑誌』第 209 巻第 9 号, 神戸大学経済経営学会, 55-67 頁。(査読なし)

出町 一恵, 駿河 輝和 (2014) 「資源国におけるフェルドシュタイン = ホリオカ逆説について」, 『国民経済雑誌』第 209 巻第 6 号, 神戸大学経済経営学会, 1-11 頁。(査読なし)

Demachi, Kazue (2014) “Capital flight from resource rich developing countries,” *Economics Bulletin* 34(2): 734-744. (査読有)

出町 一恵 (2014) 「経済成長へ貿易相手国が与える影響：産油国およびアフリカ諸国に関するパネルデータ分析」, 『国際協力論集』第 21 巻第 2&3 号, 神戸大学国際協力研究科, 141-160 頁。(査読なし)

〔学会発表〕(計 1 件)

Demachi, Kazue, “Resource-based Capitalism or Industrial Capitalism: Why we should be cautious on current development,” International Conference on African and West Asian Nations (AFWAN), hosted by University of Malaya, at Royal Chulan Hotel, Kuala Lumpur, Malaysia, November 18, 2013.

〔図書〕(計 3 件)

Demachi, Kazue and Takuji Kinkyō (2015) “Financial Development and Growth in Resource-Rich Countries,” in Takuji Kinkyō, Takeshi Inoue, and Shigeyuki Hamori Eds., *Financial Linkages, Remittances, and Resource Dependence in East Asia*, World Scientific Publishing: Singapore, (頁未定, Chapter 6 全 24 頁).

Demachi, Kazue and Takuji Kinkyō (2015) “Challenges to Macroeconomic Management in Resource-Rich Developing economies,” in Takuji Kinkyō, Takeshi Inoue, and Shigeyuki Hamori Eds., *Financial Linkages, Remittances, and Resource Dependence in East Asia*, World Scientific Publishing: Singapore, (頁未定, Chapter 8 全 17 頁).

出町 一恵 (2015) 「天然資源の恵みと呪い」 佐島隆・佐藤史郎・岩崎真哉・村田隆志編 『国際学入門』 法律文化社, 29章, 237-243 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中瀬 一恵 (出町 一恵) (NAKASE
(DEMACHI), Kazue)
神戸大学・大学院国際協力研究科・助教
研究者番号: 20709753

(2) 研究分担者

なし
()

研究者番号:

(3) 連携研究者

なし
()

研究者番号: